

平成 27 年度 神奈川県立鶴見高等学校 学校評価

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1. 本校 教育目標の実現のための「3年間の生徒育成プログラム」をまとめ、生徒一人ひとりの進路実現と社会に貢献できる人材育成を進める。	<p>ア 「3年間の生徒育成プログラム」をまとめ、個々の進路希望に応じた進路実現を図る。</p> <p>イ 本校教育課程の検証をすすめ、学習指導計画と「3年間の生徒育成プログラム」の連携を図る。</p> <p>ウ いのちを大切に、他者を尊重する態度の育成を図るとともに、社会参画、社会貢献への意欲の向上を図る。</p>	<p>ア 「3年間の生徒育成プログラム」をまとめおよび生徒の進路実現は進んだか。</p> <p>イ 現行学習指導要領に応じた本校教育課程の検証が進んだか。また、学習指導計画と「3年間の生徒育成プログラム」の連携が進んだか。</p> <p>ウ いのちを大切に、他者を尊重する態度、社会参画、社会貢献への意欲は伸長したか。</p>	<p>・「3年間の生徒育成プログラム」に基づく進路指導を進めた結果、国公立大学の合格者数が前年比6名増加したが、上位校への進学実績は伸び悩んだ。</p> <p>・平成30年度教育課程の検討に入り、教科の視点からの課題を抽出した。また、科目選択指導期間を延長し、生徒支援を充実させた。</p> <p>・授業や学校行事、部活動、やボランティア活動などを通じて、他者を尊重する態度の育成に努めた。</p>	<p>・「3年間の生徒育成プログラム」のまとめを今後の学校教育計画等に反映する。</p> <p>・「目標とする大学」の合格者数を伸長するため、課題を整理し、教科指導・進路指導をさらに充実させ進路実現を図る。</p> <p>・平成30年度の教育課程の検討をさらに進めると共に、移行期の教育課程の改訂にも取組む。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・進路指導については、生徒の意識づけが早めになされていると思います。</p> <p>・適切な科目選択のアドバイスがなされていると感じます。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・先生方の熱心な指導の成果として、学校行事や卒業式等の式典における生徒の真摯な取組や態度を拝見することができ、たいへん好感を持った。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・「3年間の生徒育成プログラム」がまとめ、今後の県鶴生の生徒育成方針を具体的にイメージすることができるようになった。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・「3年間の生徒育成プログラム」に沿って様々な教育活動の実践を進めるとともに、今後の学校教育計画の策定や平成30年度の教育課程の編成に取組む。</p>
2. 生徒一人ひとりに応じた支援の充実を図るとともに、生徒指導・生徒支援を一体的に捉え、進路実現に向け学ぶ意欲を高め集団としての成長を促す取組の構築・充実を図る。また、自立した市民社会の構成員として不可欠な規範意識の醸成、マナー育成、社会参画への意欲及び他者を思いやる豊かな人間性を育む。	<p>ア 生徒指導と生徒支援を一体的に捉えた生徒育成プログラムをまとめる。</p> <p>イ 個々の生徒理解を多面的に深め、教育相談・健康相談・個別支援など必要な支援を組織的に行う。</p> <p>ウ 多様な場面を通じ規範意識・マナーの向上を図るとともに、自己と社会との関わりや集団としてのあり方を考え主体的に行動できる力を育成することを通じて、生徒自らが自分の成長を実感し自らに誇りを持てるよう支援する。</p>	<p>ア 生徒指導と生徒支援を一体的に捉えた生徒育成プログラムがまとまったか。</p> <p>イ 個々の生徒理解が深まり、必要な支援を組織的実施したか。</p> <p>ウ 規範意識・マナーの向上、生徒の自己と社会との関わりや集団としてのあり方を考え主体的に行動できる力は伸長し、自らに誇りを持てるような成長が見られるか。</p>	<p>・生徒指導と生徒支援を一体的に捉えた「3年間の生徒育成プログラム」をまとめることができた。</p> <p>・定期的な個々の生徒状況を学年や校内委員会等で共有することで生徒に必要な支援を組織的に取組むことができた。</p> <p>・様々な生徒の活動場面を通じて、規範意識やマナー向上を図るとともに、集団の中での個々の生徒のあり方等を考えさせることで主体的に行動できる生徒が増えてきた。</p>	<p>・「3年間の生徒育成プログラム」に沿って、引き続き校内委員会等を中心に学校外の相談機関とも連携を取りながら、組織的な個別支援及び生徒相談体制の一層の充実に努める。</p> <p>・「3年間の生徒育成プログラム」の理念を具現化するため、部活動・生徒会活動と生活指導などを有機的に関連させた実践を進める。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・部活動における顧問の先生の指導は非常に影響力があるので、担任の先生との指導と併せて適切な指導をお願いしたい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・自転車通学者が多いということは、社会の規範意識として交通ルールやマナー等を指導する機会があると言える。本来は家庭でしつけるべきことではあるが、学校でも指導して欲しい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・生徒指導と生徒支援を一体的に捉えた生徒育成プログラムがまとめ、生徒の様々な教育活動の中で、規範意識やマナー向上を図ることができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・生徒指導と生徒支援を一体的に捉えた「3年間の生徒育成プログラム」に沿った相談活動や生活指導等を推進する。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
3. 「確かな学力向上推進」研究推進校として3年間の研究のまとめに取組、あわせて3年間の学習指導を見直し、生徒の実情に応じた効果的かつ組織的な授業改善に向け研究・実践を推進する。	<p>ア 「確かな学力向上推進」研究推進校として、特に「学ぶ意欲」「思考力・判断力・表現力」の向上・定着に向けて、RPDCAサイクルを活用した組織的な授業改善を行い、その成果をまとめる。</p> <p>イ 学習指導の改善と学習サポートシステムや模擬試験の取組の連携をさらに進め、進路希望を実現する多様な取組を進める。</p>	<p>ア 「学ぶ意欲」「思考力・判断力・表現力」の向上・定着および組織的な授業改善の成果を検証、まとめることができたか。</p> <p>イ 学習指導の改善と学習サポートシステム等の取組の連携を図り、多様な取組の実施により、生徒の進路実現を図れたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいの達成度をチェックする取組として新たに「エッセチェック15」を考案し、その活用と年2回の研究授業を通じて「学ぶ意欲」「思考力・判断力・表現力」の向上・定着の成果を評価する取組を進め、報告書にまとめ発表、発信した。 授業計画と学習サポートシステムの取組の連携を図り、生徒の進路実現のための指標となる取組を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進」の3年間の取組の成果をまとめ、今後もRPDCAサイクルを活用した組織的な授業改善を推進し、生徒の「学ぶ意欲」「思考力・判断力・表現力」の定着・向上に努める。 学習指導の改善と学習サポートシステムの連携を密に図ることで、個々の生き方や進路実現につながる学習活動を充実させる。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、自習室が整備され、勉強に向かえる環境が整備されたので、未来の自分が想像でき、明確な目標が持てるよう指導してもらいたい。(学校評議員) 中学校では、学校教育の中で様々な体験をさせ、漠然とでも自分の未来を考えさせたいと思っている。高校ではさらに具体的に将来像を描けるように指導して欲しい。 施策の成果は、できるだけ数値化して客観的に評価できるようにしてほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進」の3カ年の研究でRPDCAサイクルを活用した組織的な授業改善の取組が推進できた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間の研究成果を生かした新たな学習評価に係る研究実践に取組、授業改善を推進し、授業力の向上を図り、生徒の学力向上につなげる。
4. 「3年間の生徒育成プログラム」検討のまとめを通じて、キャリア諸能力の伸長に向けた学年進行に応じた重点化を図り、あわせて、個々の生徒が将来の生き方・働き方、将来の社会参画の在り方について考え、その具現化のための進路実現を図る。	<p>ア 「3年間の生徒育成プログラム」と「キャリア教育実践プログラム」「総合的な学習の時間全体計画」の有機的な連携を図る。</p> <p>イ 生徒指導、生徒会指導、部活動指導の中での生徒のキャリア諸能力を育成する取組を進める。</p> <p>ウ 学習指導の中で、生徒のキャリア諸能力を育成する取組を進める。</p>	<p>ア 「3年間の生徒育成プログラム」と「キャリア教育実践プログラム」「総合的な学習の時間全体計画」の有機的な連携が進んだか。</p> <p>イ 生徒指導、生徒会指導、部活動指導の中での生徒のキャリア諸能力は伸長したか。</p> <p>ウ 学習指導の中で、生徒のキャリア諸能力は伸長したか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」における学習指導計画を、研究開発Gを中心となり、進路支援G、生活指導G、各学年等有機的に連携し、より充実した学習活動を行えるようになった。 生徒の主体的な活動を積極的に支援することで、生徒の主体性や積極性が芽生え、生徒のキャリア諸能力の伸長が見られた。 各教科の中で、生徒のキャリア諸能力の伸長を意識した授業や補習も取組も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒育成の根幹となる「3年間の生徒育成プログラム」がまとまり、今後はそのプログラムの理念に沿った本校キャリア教育実践プログラムの全体計画の改訂につなげる。 多様な生徒の活動を生徒自ら主体的に活動できるような支援することで、成長を実感しながら進路実現につなげる意欲の向上とキャリア諸能力の育成を充実させる。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> OBOG講演会がきっかけで進路を決める生徒もいるようなので、今後も多様な職種の方から話を聞ける機会を増やして欲しい。 18歳選挙が始まることを受けて、大人の意識を早く持って、将来を考えられるように指導して欲しい。(学校評議員) 自分の将来像への気づきは様々な活動や体験が不可欠である。良いものと巡り合う機会をたくさん作ってほしい。そのためにも地域の資源も活用してほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究開発Gを中心として、進路支援G、生活指導G、各学年等有機的に連携したキャリア教育実践プログラムが策定でき、生徒のキャリア諸能力の伸長が図れた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は、「3年間の生徒育成プログラム」の理念に沿ったキャリア教育が実践できるよう、キャリア教育実践プログラムの改訂を進める。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
5. 地域・同窓会・保護者との協働・連携を通じて多様な教育活動を展開するとともに、適切な情報発信を図り中学生・地域のニーズに応える開かれた学校づくりを進める。	<p>ア 地域・保護者・同窓会等の地域の教育資源を様々な教育活動で活用し、生徒の多様な成長につなげる。</p> <p>イ 学校行事、生徒会活動、部活動、地域貢献活動などを通じて、生徒の社会参画・社会貢献への意識の向上を図る。</p> <p>ウ 本校ホームページの充実により広く県民に情報発信を図るとともに、学校説明会・オープンスクールなどを通して中学生・保護者および中学校教員に対し本校教育活動の理解を図る。</p>	<p>ア 地域・保護者・同窓会等の地域の教育資源を活用し生徒は成長したか。</p> <p>イ 生徒の社会参画・社会貢献への意識は向上したか。</p> <p>ウ 広く県民に情報発信し、中学生・保護者および中学校教員の本校教育活動に対する理解は進んだか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災研修、東北被災地ボランティア、古着回収ボランティア、OBOG 講演会等、地域、保護者、同窓会等の教育資源を活用した取組を推進し、成果を挙げた。 ・東北被災地ボランティア、古着回収ボランティア、吹奏楽部の地域演奏活動、地域給水訓練参加等を通じて社会参画の意識向上に繋がった。 ・学校ホームページの更新を図り、情報発信に努めるとともに学校説明会の充実を図り、本校の教育活動を積極的に広報し、生徒の入学希望者の増加に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動の中で地域、外部機関、保護者、同窓会等との連携及び協働を継続して実施する。 ・引き続き地域との連携を密に図りながら、社会参画や地域貢献を意図した活動を継続する。 ・学校ホームページの充実・発展を図るとともに、学校説明会の時期及び生徒が参画する内容等を検討し、中学生、保護者への情報発信を強化する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAと合同で行っている交通安全見守り活動には、もっと多くの先生方にも参加してもらいたい。 ・学校ホームページでの情報発信を楽しみに見えています。引き続き内容の充実を図ってください。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校は、地域との連携が非常に重要であり、様々な実践がされている。地域との連携を強化するには、地域からの働きかけに応じるだけでなく、自ら仕掛けていくことも必要である。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの地域と連携した教育活動の実践は継承できているがより地域との協働には改善の余地がある。 ・学校ホームページ・学校説明会等、広報活動の充実が図れた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災活動等、地域からの働きかけに応じるだけでなく、自ら地域に働きかけることで、地域に信頼される学校作りを推進する。 ・学校の広報活動の充実にも努める。
6. 学校運営業務の整理精選を行い、生徒と向き合う時間の確保に努めるとともに、チャレンジとコンプライアンスを旨とし、事故・不祥事防止に努め、明るく風通しのよい職場環境を醸成し、地域・保護者・生徒に信頼される学校を目指す。	<p>ア 学校運営業務の整理精選を進め生徒と触れ合う時間を確保できたか。</p> <p>イ 学習環境および危機管理体制の整備を進め、いのちの尊重、防災、交通安全等の教育活動の充実を図る。</p> <p>ウ 事故・不祥事防止の取組を確実に進め、地域・保護者から信頼される学校づくりを図る。</p> <p>エ 本校職員としての自覚と誇りを持ち、教職員が率先してチャレンジし、個々の生徒の成長を目指し協働する職場づくりを進める。</p>	<p>ア 学校運営業務の整理精選を進め生徒と触れ合う時間を確保できたか。</p> <p>イ 学習環境および危機管理体制の整備やいのちの尊重、防災、交通安全等の教育活動は充実したか。</p> <p>ウ 地域・保護者から信頼される学校として、事故・不祥事防止ゼロを達成したか。</p> <p>エ 教職員が率先してチャレンジし、個々の生徒の成長を目指し協働が進んだか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営業務を整理・精選に努め、一部の業務において整理が図れた。 ・生徒が安心して学習活動に取り組めるよう学習環境の整備を推進した。また、交通安全等の意識啓発にも取り組むことができた。 ・事故・不祥事ゼロプログラムの推進を通して、事故防止に対する意識が高まった。 ・「生徒・教職員がともにチャレンジする学校づくり」の意識が高まり、学習や学校行事等に意欲的に取り組む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学校運営業務の整理精選を進め、生徒と触れ合う時間の拡大に努める。 ・引き続き生徒が安心して意欲的に学習や部活動、学校行事等に取り組めるよう、学習環境の整備に努める。 ・朝の打合せや職員会議などの機会を捉え、事故・不祥事防止を組織として取り組む意識の啓発を図る。 ・教職員の発想や意欲を引き出し、生徒にとってより良い教育活動が展開されるよう良好な職場環境の創出を図る。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境が少しずつ改善されてきたことを感じます。 ・先生方には、身近な大人として絶えず生徒の模範となり、生徒を指導して頂くことを期待しています。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の姿を見て子は育つように、生徒も教師の姿を見て育つと思うので、先生方にも生徒とともにチャレンジする姿を見せて欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営業務の整理精選については、一部の業務の見直しはできたものの、まだまだ改善の余地はある。 ・事故・不祥事防止の取組は、緊張感を持って業務に取り組むよう絶えず意識づけしたが、入学者選抜で採点ミスが見つかった。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と触れ合う時間を拡大するためにも学校運営業務の整理精選に引き続き取り組む。 ・入学者選抜業務は、受検生の将来に関わる重要な業務であることを再認識して取り組む。